

---

# はじめのいっぽ

鴉

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

はじめのいっば

### 【コード】

N4205BA

### 【作者名】

鴉

### 【あらすじ】

義理母と娘の娘の短い話

## (前書き)

Pixivであげてあった小説です。  
持ってきました。

夏やんでいた頃に描いたので、ただのシリアスです

ビックリするほどダメ文です

私は義理母が苦手だ。

何時も良い面して、なつかれようとしてるのが見え見えだ。だから、私は義理母が苦手だ

でも、嫌いではない。

不覚ながら最近分かってきてしまった。

義理母 が私にとって世に一人の母に似ていると言ったことが…

決して顔が似ているわけではない。

が、凄く似 ているのだ。手の仕草、恥ずかしくなると口を 隠す。誉め方、伸ばすようにちゃんと意見を述 べてくれる。笑い方、あまり皺がよらず、美しい頬はスツと上上がる。

母そっくりなのだ。私はそれが嫌だ…義理母の 事を好いてしまった時世に一人しかない私の 母はどうなるのだ？

そう考え出す頃には私は部屋に閉じ籠るようになっていた。

ベットに横たわって携帯を開け閉めする。

カコ ンカコン、  
静かな部屋に響く音。

何時も何もするわけではない。ただ、ベットに横たわって一日を過ごす

最近は食事も取らなくなった… そんな私に医者【拒食症】と言った。珍しくは無いらしい、が、死ぬこともあるそうだ。けど、私は死ぬことなんて怖くない。

母に会いに行けるから 。

コンコンッ

そんなことを考えていると部屋のドアが叩かれる。薄く暗い部屋から少し明るいドアを見つ　ると義理母の声がしてきた。私は何も聞かず、唯、携帯を開け閉めする。

途中、義理母の苦笑が聞こえ私の部屋から遠　かっていく。寂しいのか？　いいや、寂しくはない　何で泣いてるのだろうか？　私の足は自然とドアの前に歩み寄る。少し開　ると、明かりが漏れ目に当たり痛い。けど、　ゆっくり開ける

ガタンッ

何かに当たる。

下を見るとお盆の上に料理が　いてあった。

肉じゃが、白米、味噌汁、冷や奴、おひたし、魚…家庭的な料理だ。食べられるはず無いのに…が、ふと、横を見るとぐちゃぐちゃの物が…嘆息しながら私は横にある置き手紙を見た。

【お料理　このへんなの　お粥なんだけど、食べ　たくなかったら　ほっとしてね！

後、最近風邪気味そうだったから薬も付けてお　きます。暖かくして過ごしてください。】

何時も置いてくれるのか？

タベラレナイッテ

もっと、涙が溢れてきた。

お盆を持ち上げ、部屋に運んだ。最初は吐いてしまった  
いた料理。でも、これも母そっくりの味なのだ。  
ゴハンと言うものがこんなに美味しいとは知らなかった。  
何気なく口にしていたものがこんなにも美味しいのだ。

それから私は義理母と会話ができるようになった

まだ少しきこちないけど、話せている

母に似た義理母は苦手だ。苦手だけど、母は母 義理母は義理母…

義理母は苦手だ。

苦手だ。

ニガテ でも、分かった

私は義理母が好きなんだと。

義理母には覚悟してもらわないといけない。

私は笑って言ってあげた。

「私は義理母あなたが好きだ」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4205ba/>

---

はじめのいっぽ

2012年1月11日02時56分発行